

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 124人 国語B 124人

② 算数A 124人 算数B 124人

③ 理科 124人

5 留意事項

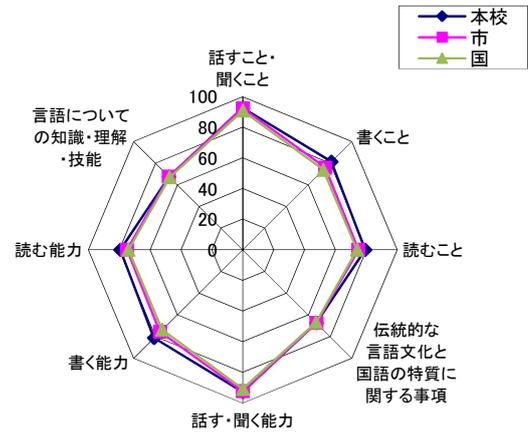
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

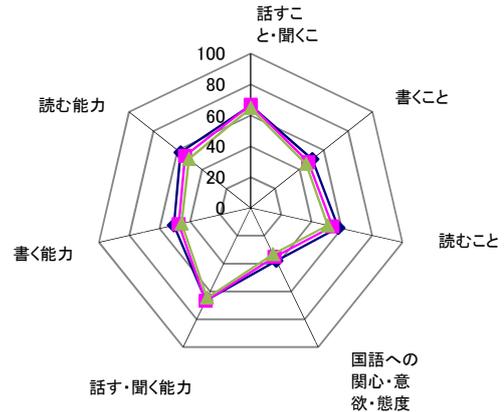
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	92.7	92.4	90.8
	書くこと	81.3	75.7	73.8
	読むこと	79.3	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	92.7	92.4	90.8
	書く能力	81.3	75.7	73.8
	読む能力	79.3	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	67.5	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.4	66.8	64.6
	書くこと	50.6	47.4	45.6
	読むこと	57.7	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.9	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.4	66.8	64.6
	書く能力	50.6	47.4	45.6
	読む能力	57.7	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

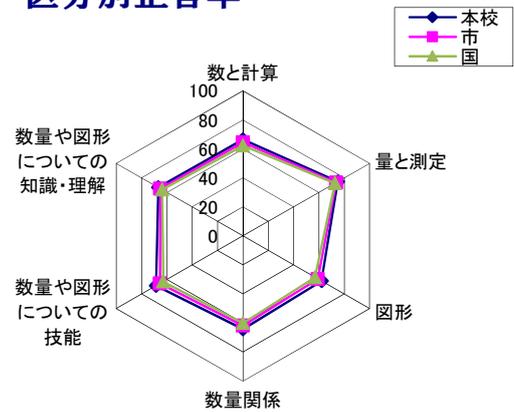
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Bの、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、全国の正答率を2.9ポイント下回った。 ○国語Bの、話合いの参加者として質問の意図を捉える問題では、全国の正答率を6.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題では無答率が10.6ポイントと高いことから、文章を書くことに苦手意識があることが考えられる。そのため、学校での共通体験を作文にするなど、書く機会を多く取り入れていくようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○国語Bの、目的に応じて文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながらかくむ問題では、全国の正答率を9.5ポイント上回った。 ○国語Bの、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題では、全国の正答率を7.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な結果なので、これからも目的や意図に応じ、文章の内容をまとめる活動や、自分の考えを根拠を明らかにして整理する活動を取り入れていきたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○国語Aの、目的に応じて必要な情報を捉える問題では、全国の正答率を6.6ポイント上回った。 ○国語Bの、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題では、全国の正答率を4.3ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な結果なので、これからも、大切な事柄に線を引いたり文のつながりを考えたりしながら、筆者の意図や書かれている内容を正確に読み取れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Aの、文中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題では、7ポイント全国の正答率を下回った。 ○国語Aの、5年生配当の漢字(積極的)を正しく書く問題では、6.3ポイント全国の正答率を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取ったり書いたりする際に、主語と述語のつながりを意識させる。また、読書を奨励し、主述の整った文章や表現豊かな文章に触れさせる。 ・今後も漢字テストへの目標をもった取り組みや、日々の反復練習を実践していく。また、新出漢字だけでなく、前学年までの既習の漢字を、ノートや作文などの記述の中で、使えるようにしておく。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

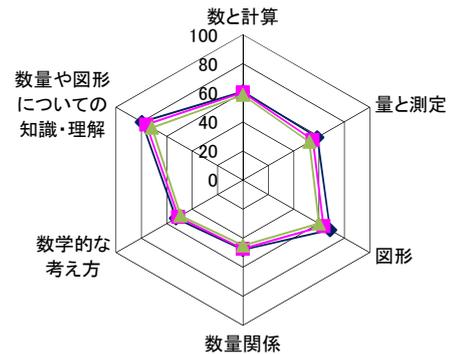
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.5	64.5	62.3
	量と測定	74.8	73.6	72.7
	図形	62.1	59.1	56.9
	数量関係	64.2	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	68.6	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	66.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.8	60.2	58.4
	量と測定	58.5	55.0	52.4
	図形	68.7	63.5	59.9
	数量関係	48.1	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.7	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	79.7	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

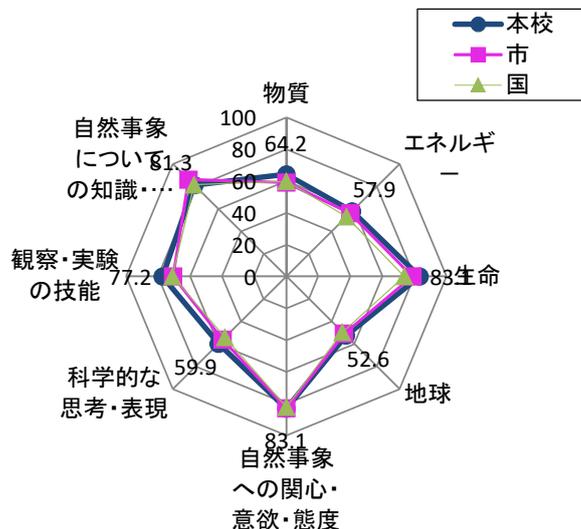
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○算数Bの、横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く問題では、7.2ポイント全国の正答率を上回った。</p> <p>●算数Aの、3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な文字を書く問題では、0.8ポイント全国の正答率を下回った。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習で今後も繰り返し学習を行い、基礎的な計算力を身に付けさせる。</p> <p>・二つの数量の関係を一般化して捉える問題では、どのような数量関係が成り立つか予想したり、数値や場面を変えても同じような関係が成り立つか考えたり、理由を説明したりする活動を行い、数量の関係を言葉や式で表現できるようにする。</p>
量と測定	<p>○算数Bで、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題では、9.5ポイント全国の正答率を上回った。</p> <p>●算数Aの角の大きさが、何度であるかを選ぶ問題では、0.1ポイント全国の正答率を下回った。</p>	<p>・量の比較や測定についての問題では、直接比較だけでなく、長さやかさ、重さなどのそれぞれの量を、同種の量のいくつ分という数値に置き換えて比較する任意数値による比較で、大きさの違いを実感できるようにする。</p>
図形	<p>○算数Bの、合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から条件に合う正しい図形を選ぶ問題では、9ポイント全国の正答率を上回った。</p> <p>○算数Aの、円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題では、10.4ポイント全国の正答率を上回った。</p>	<p>・デジタル教科書を活用して図形のイメージを持たせるとともに、具体物を操作したり作図する活動を行ったりして、実感を持って理解できるようにする。</p> <p>・展開図から立体の面の位置を考える活動では、展開図を組み立てたり、立体を切り開いたりする経験を多く積ませることで、立体の平行や垂直になっている面が、展開図のどの位置に当たるのかが、念頭で理解できるようにする。</p>
数量関係	<p>○算数Bの、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く問題では、5.3ポイント全国の正答率を上回った。</p> <p>●算数Aの、示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ問題では、0.5ポイント全国の正答率を下回った。</p>	<p>・社会科のグラフ資料や理科の実験結果を示すグラフの読み取りの際にも、目盛りの読み取り方などを意識するように指導する。</p>

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	64.2	59.0	59.8
	エネルギー	57.9	56.4	53.1
	生命	83.1	78.6	73.6
	地球	52.6	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	83.1	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	59.9	56.1	54.1
	観察・実験の技能	77.2	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	81.3	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>○領域のほとんどで市の正答率を上回ることができた。</p> <p>○食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く問題では、市の正答率を12ポイント上回った。</p>	<p>・物質分野では、全ての問題で市の正答率を上回っているため、領域の各単元における実験時間の充実を図るとともに、論理的思考力を更に育成していきたい。</p>
エネルギー	<p>○回路を流れる電流の流れ方について、検流計の針の向きとめもりを選ぶ問題では、市の正答率を8ポイント上回った。</p> <p>●目的の時間帯だけモーターを回すため、光電池の適切な位置や向きを選ぶ問題では、市の正答率を5ポイント下回った。</p>	<p>・基本的な知識を問う問題は解けるが、分野が複合された応用問題の理解については不十分だった。得た知識を結び付けて考えていく力を育成するために、応用的な問題を解いたり、知識を生活の中で生かしていけるような指導をしたりしていきたい。</p>
生命	<p>○領域のほとんどで市の正答率を上回ることができた。</p> <p>○野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題では、市の正答率を6ポイント上回った。</p> <p>○人の腕が曲がる仕組みについて示された模型を使って説明できる内容の問題では、市の正答率を14ポイント上回った。</p>	<p>・生命分野では、全ての問題で市の正答率を上回っているため、引き続き観察や実験を丁寧に取り組んでいきたい。</p>
地球	<p>○流れる水の働きによる土地の浸食について、斜面に水を流した時の立てた棒の様子を選ぶ問題では、市の正答率を6ポイント上回った。</p> <p>●流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ問題では、市の正答率を6ポイント下回った。</p>	<p>・流れる水の働きにおける用語の習得が不十分であった。復習を重ねることで、基本的な知識の定着を図っていききたい。今後も、重要語句は、正しく理解し覚えられるように心掛けていきたい。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合は63.7%で、県の割合41.7%を大きく超えている。夢いっぱいプロジェクトなどで児童の夢を応援したり、夢が叶ったら賞賛したりして、児童の良いところや善い行いを、児童同士や教師が認め励ましてきた成果であると考えられる。

今後も、クラスの中での居がい感を持てるような指導に努めていきたい。

○「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は90.3%で、食べてこない児童は0%である。また、「学校の宿題をしている」と回答した児童は94.4%であることから、家庭での規則正しい生活習慣ができていることがうかがえる。

今後も、家庭と連携し、望ましい生活習慣が続くように、全校体制で取り組んでいきたい。

●「地域社会などでボランティア活動などに参加したことがある」と回答した児童は23.4%で、全国平均を2.7%下回っている。地域での活動や催しについて知らない児童が多いと思われるので、学校としても地域の情報収集に努め、児童に知らせていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」と肯定回答した児童の割合は、58.1%で、全国の平均61%を下回っている。

今後は、今、全校で取り組んでいる伝え合う活動に様々な伝え方の工夫の学習を取り入れ、話の組み立てを工夫することに進んで取り組むことができるようにしたい。

宇都宮市立〇〇〇小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、ふりかえりを確実にするための工夫	黒板に貼る、めあて・まとめ・ふりかえり等のカードを全教室に置き、どの授業でも活用する。板書見せ合いの日を月に一度設定し、カードの活用について確認し合ったり互いに参考にしたりする。	「授業の内容がよく分かる」という質問について、算数では81.5%、理科では92%の肯定回答があった。
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	話し合いにおいて、ペアやグループ、全体などの形態を工夫するとともに、発達段階に応じた聞き方・話し方のスキルを身に付けさせる。 国語を中心にした各教科で、自分の考えを書いたり発表し合ったりする活動を取り入れる。	「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」では、肯定回答が58.1%であったが、「友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」では79.9%の肯定回答があった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年内で宿題の量や家庭学習のやり方について共通理解を図る。学級活動で家庭学習・自主学習のやり方を指導する。担任が自主学習ノートの内容や提出頻度を確認し、月に1回程度保護者が確認する機会を作る。児童が互いの自主学習ノートを見せ合い、よいところを参考にしたり話し合いを担任がリードして行う。	6年生で「家で学校の宿題をしている」と回答した児童は98.4%で習慣化されている。「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童は、5年生の時より10ポイントほど上がって74.2%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、自分の考えや理由、解き方などを記述する問題で全国平均を下回るものがあった。	それぞれの児童が自分の考えをもち、互いに表現する活動の充実	各教科等の授業において、どの児童も考えをもてるようにする発問や作業用紙の工夫をする。意見の発表、順序や理由の説明など、場面に応じた記述や発表をする機会を設定し、スキルを身に付けられるようにする活動を取り入れる。